

三、國際労働會議はブルジョアジの救済機関である。其所に於ける若干の取り極めに於て彼等は尖鋭化せんとする階級対立を平和せしめんと欲する。それ故に吾等は同機関を無視し黙殺するの勇氣を持たない。

何故なれば之を全然無視し黙殺し閑せす焉の態度をとることは彼等の欺瞞の魔手を充分に伸さしむる事以外に何物も得られないからである。寧ろ進んで最有効の方法に於て之を監視することこそが吾々の階級的任務でなければならぬ。

然しながら代表委員選出の向題に就ては飽く迄も國內經濟戦線、共同的行爲を加ふる。立場から其の態度を決定すべきである。

四、ブルジョアジが益々及働化し、あらゆる資本家的組織と結合して露骨に労働組合切崩、争議弾壓の暴挙に出でつゝ、あるは最近特に着しい。又將來益々此の傾向は甚だしくなつて行くであらう。されば労働組合、組織内容等も亦それに對應して改良が施されなければならぬ。大衆動員組織がそれである。

大都市に於ては一時間毎に數万人を動員し得ると豪語する警察刀の下にある吾が運動は、或はそれに及ばざる迄也。それに對する一應の準備はされねばならぬ。殊にストライキや閉争等に於ては、單なるイヤガラセやガ鳴り込み或は埋没戦術等は最早効力を奏しない。従つて之等の更態的な戦術は清算され、大衆動員に依る本格的戦術にそれは代置さるべきである。勿論組織はミルンペン、デモは吾等

のとりさる所であるが血を前提とする大衆デモを以て當るの決意と用意がなければ將來の争議は断つて敗北である。此の故にこそ徹底的に大衆動員網が精査の如き正確さと明瞭さを以て計畫されねばならぬ

## 五、専門部行動方針

### 一、組織部

労働組合の機能を發揮し、戦闘力を充實する爲めに教育部其他の部門との協力の下に組合員大衆を意識化し訓練化すべく絶えざる努力が辨はれねばならぬ。鐵の如き訓練と機動をもせざる統制は労働組合の必須條件である。特に資本の猛襲と閉争の激化に際しては大衆動員組織の確立を必要とする。

一、組合の強化の爲に組合内デモクラシーの確歩即ち組合内、外あらゆる場合に於て組合員の發意を重んじ組合員との合議の形體を擇び、組合員大衆をして自分等が衝り、育むべき團體であると意識付け、幹部に對する依賴的障害を除去する標準に指導部は努力す可きである。

二、日本の現状の如く壓制的多數の労働者を本組織のまゝ、放任して徒らにブルジョアジの戒嚴令下に放置することは危険である。それは労働階級の勝利の障